

2013年5月8日

第177回日本経営倫理学会・理念哲学研究部会5月例会議事録

部会長・宇佐神

日時：2013年5月6日（月） 18:00-20:00

場所：学士会館308号室

出席：西藤、望月、宇佐神

欠席連絡：遠藤、新川、竹内、長塚、古山、山本

1. 6月以降の例会日程：確認と10月以降の確定

- ① 6月3日（月）18:00-20:00 学士会館308号室
- ② 7月1日（月）18:00-20:00 学士会館308号室
- ③ 8月5日（月）18:00-20:00 学士会館308号室
- ④ 9月2日（月）暑気払い、
- ⑤ 10月7日（月）17:00-19:00、 学士会館308号室
- ⑥ 11月4日（月・祝）17:00-19:00 学士会館308号室
- ⑦ 12月2日（月）17:00-19:00
- ⑧ 1月6日（月）新年会（夕食会）17:00-19:00

2. 議事：

- ① 研究発表大会における研究発表者について：  
望月、宇佐神が予稿等提出済み。発表要旨などをもとにした予行的報告は次回でも行う。
- ② 「経営倫理の今日的課題」について：4月例会での今後の取り組みについてを受け（西藤氏より経緯の説明）。「経営倫理の今日的課題」について、理念哲学部会としての提言原案の準備に入るため、その工程表並びに担当者を8月例会頃までに確定したいと思いますので、各自お考え置きいただきたい。
- ③ 田坂広志『Invisible Capitalism 目に見えない資本主義』の今後の予定は以下の通り。  
7月例会発表予定者・山本会員（担当箇所9話～13話）の申し出を受け、  
7月例会では、田坂広志・上掲書を持参のうえ、出席者による合同研究会とする。
- ④ ウェーバー『職業としての政治』にある、政治家の資質を踏まえ、21世紀の経営と経営者の条件の検討。  
1919年当時、経営責任が浮上してきた領域が、政治の領域であり、今日の経営倫理の先駆的意義を政治に見出だしようと共に、そこで提起された政治家の資質を確認し、今日要求される、経営倫理の在り方を問いたい。

（宇佐神問題提起）：次回にレポート予定＝政治家の資質（倫理と理念）：倫理の中核は良心の自由

3. 本日の研究発表

① 田坂氏の『Invisible Capitalism 目に見えない資本主義』5話～8話：望月

望月氏は準備した発表要旨（資料として添付）に従い、5-6話、7-8話の二回に分けて報告、それぞれ西藤・宇佐神両会員から、コメントと質疑がなされた。

主な内容

- 1、本書を取り上げた理由：本書を通して、話題を共有して今日的課題の確認と共有を意図した。  
貨幣という見える資本から目に見えない資本の意義を提起、贈与経済→交換経済→貨幣経済  
ボランティア経済の意義

家庭や地域社会が片隅に、しかし、今日インターネットで、表面化し融合経済へと向かいつつある。プロシューマー：『第三の波』で、さらに産業基地の意義。民主主義の参加型への変容等が重要、ジャック・アタリ『21世紀の歴史』で指摘した、21世紀の未来予想における三つの波の延長上に本書を位置づけうる。

五つのパラダイム転換（25ページ）の意義を確認し、それを中心に課題を共有することを意図して、本書を取り上げた。

知識価値を評価した堺屋太一の限界は共感に及ばなかった点にある。見えない資本から、倫理に迫るのには、教官の世界を共有したい。精神分析学（マズロー、フロム、エリクソン）や、哲学的人間学（M.シェーラー、A.ゲーレン）の成果を踏まえる必要がある。

人間の生活における局面と愛の形態：個人生活の必要への欲求に対応した愛＝エロス、人間が仲間によって支えられることに注目するならその仲間への愛がフィリア、そしてまだ見ることのできない、離れた人々との人格的交わりにおける愛としてのアガペーの3段階において人間の精神的成長は導かれている。

日本企業は、企業としての存続が中心となって来た。これが日本型の中心的問題点。

企業倫理と経営倫理の違いを明確に意識する必要がある。背景にある文化を踏まえる必要がある。

京セラの経営理念が、従業員を中心に展開、欧米型は、株主中心。

非正規社員をどう社会的に抱え込むかが、今日日本社会に突き付けられている問題では。

QOL（いのちの質）、多様な尺度からの評価が重要。

コンプライアンス、放任や管理でもない、自律の道へ、

西欧は個からの発想、西欧の法律は個人の権利が出発点。

日本は共同体からの発想：しかし特定の権威の確立により、パターナリスティックな方向へ体制化により、個別的共同体へと孤立化による限界がある。日本は多民族の渡来とその融合の長い歴史が前提。

2. 見える資本としての「貨幣」と見えない資本としての「人間関係」の意義を確認。前者が近代的な個に出立しているのに対して、後者が人間関係に出立。ここに、著者が日本的経営の意義を説く背景をみることができる。しかし、この日本における企業の人間関係が中根の指摘するワンセット主義的企業イェに担われて来たことに、今日のグローバル化への対応の上での日本企業の出遅れとその課題があると思われる。

3. 宇佐神の発表要旨と予稿を出席者に提供。報告は次回。

4. 『職業としての政治』（岩波文庫所収）：本書の原書“Politik als Beruf”の原文を必要される方には、お渡しすることを約束する。欲しい方は宇佐神まで、お申し出てください。

5. サイゼリアの経営理念を検討したらどうかとの提言が望月氏より、次回以降に検討したい。

★サミュエル・スマイルズの『自助論』が中村正直の訳『西国立志編』で、日本の青年に多大な影響を与えたことを最後に共有された。

以上